

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「障害（困りごと）を克服・改善する4つの要素」

障害のある子どもへの支援には、①個人に働き掛ける方法（ハードルを乗り越える練習）、②環境に働き掛ける方法（ハードルを低くする配慮）、③保護者に働き掛ける方法（ハードルをステップに変える支援）、④周囲に働き掛ける方法（ハードルを減らす理解）があります。

①個人に働き掛ける方法（本人が支援の必要性を納得しないとスタートできない）

- ・自己理解を促し、苦手さを得意な面で克服しようとする意欲とスキルを高める。
- ・他者との比較（横の変化）ではなく、その子の成長（縦の変化）を評価したり、能力や結果よりも努力している過程を認めたりして自己肯定感を高める。
- ・その子の強みを生かした役割を与え、自己有用感を高める。
- ・メタ認知を高め、3つの視点（私の視点・相手の視点・客観的な視点）をもてるようにする。
- ・社会の偏見や差別を跳ね返す強さを身に付ける。



②環境に働き掛ける方法（個人への働き掛けと同じくらい、環境を整えることが大事である）

- ・障害による困難さをカバーし、他の子どもと同じように学習に参加できるように、その子に必要な合理的配慮を提供する。

例：黒板の文字が見やすく、指示が聞き取れる座席にする、ルビ付きの問題用紙を作成する、デジカメによる板書の撮影を許可する、写真や絵カード等の視覚支援を行う、黒板周りの掲示物の情報量を減らす、ICT機器を活用する、入試において別室受験・時間延長・読み上げ機能等の使用を許可する、クールダウンの場所を確保する。

③保護者に働き掛ける方法（保護者と思いの形が重なり合うと支援の成果が表れる）

- ・子どものよいところを伝えたり、保護者の頑張りをいたわったりしながら、障害受容や子ども理解を促す。（その時に親の心情に寄り添い、最初に時間をかける！）
- ・ホッとくつろげる言葉を掛け、気まずいことも言える、聞ける関係性を築く。（誠意と敬意ある態度を心掛ける！）
- ・「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成・活用に参画してもらい、目標や手立てを共有し、PDCAサイクルで子どもの変容を見取る。（成長を共に喜び合う！）
- ・子どもの力を最大限引き出すために、代替措置も含めて、保護者と合意形成を図った上で、合理的配慮を決定・提供する。（建設的な対話と一手間が大切！）

④周囲に働き掛ける方法（障害とは周囲の理解と支援を必要とする個性である）

- ・特別な支援が学級の当たり前の支援になるように、困ったときに誰でも助けてと言える学級、間違っても許される学級、違いを尊重し認め合える学級づくりの実現を目指す。
- ・成功体験や友達から認められる場面を増やし、他者評価をプラスに変えていく。
- ・交流を通して相互の理解を深め、違いは欠点ではなく、その人らしさであることを知る。
- ・グループ活動、宿泊学習、修学旅行等では、仲のよい友達の協力を得る。
- ・障害理解授業や疑似体験を通して、障害に対する正しい知識や具体的な関わり方を身に付ける。



とれたて直送便



「子どもは、節目で伸びる」

黄色い帽子を被って重たいランドセルを背負い登校する新入生、進級に伴い教室が1階から2階に変わったり、新たな役割が加わったりした在校生。子どもたちにとって入学・進級の節目は、成長の軌跡であり、新たなスタートの証しです。環境が変わる節目は、学校生活に慣れるまで不安と期待が交錯して大変です。大変は大きく変わるチャンスです。不安を力に変え、竹のごとく、まっすぐに、強く、しなやかに成長することを願っています。